

はらはら、どきどき、
文化がいっぱい。



東アジア
文化都市
Culture City of East Asia 2019 Toshima
2019豊島



ILLUSTRATION: 久野遥子
東アジア文化都市2019豊島 プロモーション映像より

実施計画

目次

1. 東アジア文化都市 2019 豊島 開催にあたって	P2	7. 東アジア文化都市 2019 豊島 事業の全体像	P24
委員長(豊島区長)挨拶			
文化庁長官挨拶			
東京都知事挨拶			
2. 文化によるまちづくりから国際都市へ	P4	8. 東アジア文化都市 2019 豊島 スペシャル事業	P26
豊島区の文化政策の歩み		舞台芸術部門	
豊島区の文化の特徴		ディレクター紹介	
東アジア文化都市を通じて文化芸術の浸透を		ディレクター事業紹介	
「ひと」が主役のまちづくり		マンガ・アニメ部門	
国際アート・カルチャー都市構想の実現に向けて		ディレクター紹介	
国際アート・カルチャー都市「としま」		ディレクター事業紹介	
3. 東アジア文化都市とは	P10	祭事・芸能部門	
日本、中国、韓国3か国、文化による交流と発展		主な国際アート・カルチャー都市推進事業の紹介	
都市と文化が担うもの		子ども向け事業・青少年文化交流事業	
東アジアの平和構築に貢献してノーベル平和賞を目指せ		9. 東アジア文化都市 2019 豊島 パートナーシップ事業・フレンドシップ事業	P36
4. 交流都市紹介	P12	10. 東アジア文化都市 2019 豊島 開催概要	P40
日中韓文化大臣会合		スケジュール	
西安市		開幕式典・閉幕式典	
仁川広域市		実施体制	
5. 東アジア文化都市 2019 豊島 開催記念事業	P16	事業予算(2018年度)	
誰もが主役になれる劇場都市のシンボル・Hareza(ハレザ)池袋			
四季を通して個性あるイベントを開催・池袋駅周辺4公園			
池袋の中心を回遊する環境と観光のシンボル・真っ赤な電気バス			
色で表現したアート空間へ再生・WE ROAD(ウイロード)			
(仮称)マンガの聖地としまミュージアム・トキワ荘の再現			
6. 東アジア文化都市 2019 豊島を通して目指すもの	P20		
全体統括 挨拶			
シンボルロゴ/コンセプト			
7つの目標			

委員長〔豊島区長〕挨拶

「オールとしま」による体制で 豊島の魅力を国内外へ発信

「東アジア文化都市」事業は文化庁が主催する文化芸術による発展と相互理解を図る国家的事業です。豊島区は、「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」という「国際アート・カルチャー都市」を掲げるなかで、東アジア文化都市を開催することで国際的な発信力をさらに強めたいと考え立候補し、2018年8月30日に中国のハルビン市で開催された日中韓文化大臣会合で開催都市として正式決定されました。

これまで日本からの代表都市に選出された、横浜、新潟、奈良、京都、金沢という錚々たる文化都市に伍して、この豊島区で「東アジア文化都市」事業を開催できますことは、これまで、区民の皆さまをはじめ関係者の皆さまと共に歩んでまいりました文化創造都市への道のりが評価されたものと、万感胸に迫るものがあります。2019年は、2020年東京オリンピック・パラリンピックを目前に控え、世界が東京に注目し、もっとも機運が高まっている年です。この年に「東アジア文化都市」を開催することで、豊島区の魅力を世界に向けて発信する絶好の機会と考えています。

そして、東アジア文化都市2019豊島では、区民のみなさんが主役です。

多くの区民のみなさんが事業を鑑賞するだけでなく、さらには作り手として参加いただけます。また、子どもたちが参加しやすいプログラムを用意することで、豊かな国際感覚を備えた次の世代の人材を育ててまいります。

豊島区は「マンガ・アニメ」の発信拠点として注目を集めています。さらに区内で特に盛んに行なわれている「舞台芸術」、「祭事・芸能」とともに魅力的な新規事業・日中韓交流事業を立上げます。交流の視点を盛り込み、区民としての中韓の方々を含めた多文化共生を推進させていきます。

また、2019年に完成する多くの施設を「東アジア文化都市2019豊島開催記念事業」と位置づけ永く記憶に残してまいります。

豊島区は今、最大のチャンスのを迎えております。

2019年は、年間を通じて区内各所で開催されている事業をオール豊島の参加によって祝祭性を創出することで、「はらはら、どきどき、文化がいっぱい」を実現してまいります。区民の皆さま並びに関係者の皆さまのご理解・ご協力を賜りますようお願いいたします。



東アジア文化都市2019豊島実行委員会 委員長(豊島区長)

高野之夫

文化庁長官挨拶

東アジア文化都市は、日中韓それぞれの都市が互いの持つ豊かな文化芸術を発信し、交流することで、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成が促進されることを目指しています。

豊島区には、かつて「池袋モンパルナス」と呼ばれた、芸術家たちが集い切磋琢磨しながら創作に打ち込んだアトリエ村があったように、古くから若手芸術家を育成し、文化を創造する土壌がありました。そして今、豊島区はその理念を受け継ぎ、「国際アート・カルチャー都市構想」を掲げ、文化の力で世界の人々を引き付ける「国際都市」を目指して変貌を遂げようとしております。それゆえに、東アジア文化都市事業にかける豊島区の熱意には並々ならぬものを感じ、東アジア文化都市事業を通じて、その取組の成果が、国内だけでなく、中国、韓国にも共有されていくことを期待いたします。

東アジア文化都市2019の取組みにより、東アジアの異なる文化が出会い、新たな文化が芽生え、「国際都市」豊島区の更なる発展につながっていくことを祈念いたします。



文化庁長官

宮田亮平

東京都知事挨拶

オリンピック・パラリンピックは、世界の人々の心が触れ合う文化の祭典でもあります。2020年大会は、東京が世界を魅了する文化都市へと飛躍する絶好の機会であり、豊島区が、東京芸術祭をはじめ、東京都と一体となって進めている池袋を中心とした芸術文化のまちづくりは、その実現に欠くことのできない取組みです。

ラグビーワールドカップの開催年である2019年には、新たな文化施設や拠点が池袋に整備されます。この時期に豊島区が東アジア文化都市として海外の諸都市と交流することにより、東京全体の文化都市としての発信力も飛躍的に高まり、翌年のオリンピックイヤーには東京、日本の文化的側面が世界の注目を集める大きな力となります。

豊島区による東アジア文化都市開催により、池袋を中心とする芸術文化の魅力発信が国内外に波及し、東京、日本にとっての新しい文化拠点の創出という素晴らしいオリンピックレガシーにつながるものと大いに期待しています。2020年大会に向けて、一緒に盛り上げていきましょう。



東京都知事

小池百合子



豊島区の文化政策の歩み

豊島区は区制施行70周年(2002年)を契機に文化を区の重要政策と位置付け、以来、一貫して文化を中核に据えた政策を展開してきました。また、区の文化・芸術のいっそうの振興に寄与する文化政策の指針を示すため、文化芸術分野の専門家、学識経験者、区民等からなる文化政策懇話会を設置し、2年間で度重なる審議を重ねました(懇話会8回、専門部会10回)。2002年に「文化がけん引する都市の再生」などを基本方針に掲げた「豊島区の文化政策に関する提言」を受けるとともに、2003年策定の豊島区基本構想にて「伝統・文化と新たな息吹が融合する文化の風薫るまち」を基本方針として位置づけました。その後、「文化創造都市宣言」(2005年)を行い、「文化芸術振興条例」(2006年)を定めるなか、その取り組みが評価され、「文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)」(2009年)も受けています。

2013年に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催の決定後には、豊島区の文化をさらに世界に発信するべく「国際アート・カルチャー都市構想」(2015年)を策定するとともに「国際アート・カルチャー都市懇話会」を設置し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や、さらにその先を見据え、「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」を目指して「国際アート・カルチャー都市構想実現戦略」(2016年)を策定しています。

国際化の流れを感じ取りながら、国際的な文化都市としての歩みを踏み出すなかで、東アジア文化都市を開催することは、その歩みを加速させ、「国際アート・カルチャー都市」実現に向けて大きく寄与するものとして位置づけています。

2003年 基本構想にて「伝統・文化と新たな息吹が融合する文化の風薫るまち」を基本方針に

2005年 文化創造都市宣言

2006年 文化芸術振興条例

2009年 文化庁長官表彰
(文化芸術創造都市部門)受賞

2010年 文化政策推進プラン

2015年 国際アート・カルチャー都市構想

2016年 国際アート・カルチャー都市構想実現戦略

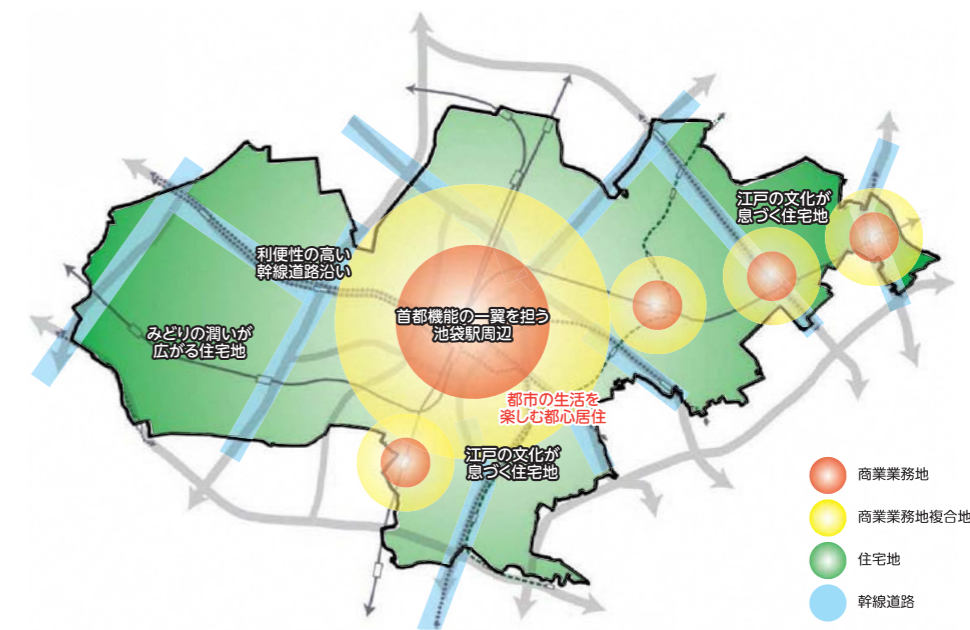
歴史	1932年(昭和7年)豊島区制施行		
面積	13.01km ² (23区中18番目の広さ)		
総人口	290,024人		
昼間人口	417,146人(平成27年国勢調査)		
人口密度	220.7人/ヘクタール⇒全国で最も人口密度が高いまち。(平成30年1月1日現在)		
外国人住民	30,392人 (総人口の約10.5%)	国籍別外国人住民数	
		中国 12,790人 (総人口の約4.4%)	韓国・朝鮮 2,629人 (総人口の約0.9%)

(平成30年7月5日現在)

豊島区の文化の特徴

◆まちの多様性

住み、働き、学び、楽しみ、憩いなど様々な個性あるまちがモザイクのように集まり、多様性にあふれる都市を形成しています。



◆人の多様性

1日250万人以上の乗降客を数える池袋駅と副都心を中心に周囲に魅力的な住宅街が広がる利便性の高い高密都市のなかで、多くの出会いが生まれています。

◆文化の多様性

伝統から最先端の流行、ハイカルチャーからサブカルチャーまで、様々な文化拠点が、新しい文化が続々と生まれています。

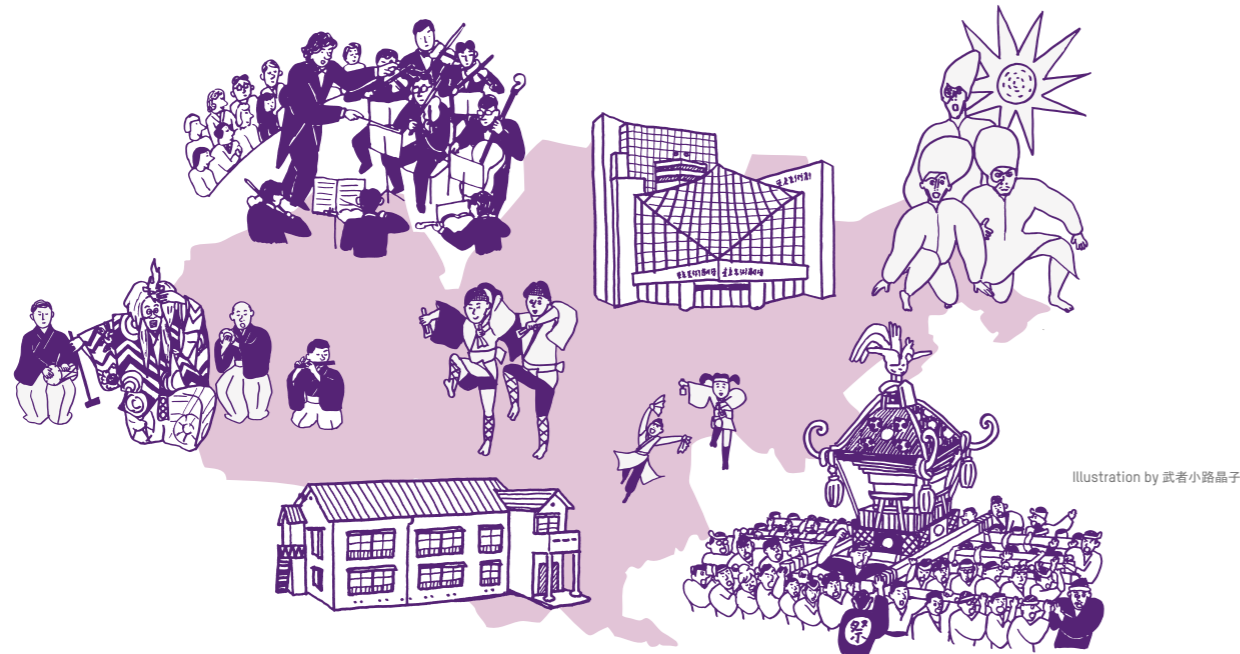


Illustration by 武者小路晶子

はらはら、ときどきをおとどけします。
豊島区のいまを彩る 多様な文化

マンガ
アニメ

アニメの聖地として注目

ラ・フォル・ジュルネ、アートオリンピック、
東京アニメアワードフェスティバル等、
国際イベントが続々と集結。

伝統
芸能

日本の伝統文化を表現する場として
各所で様々なイベントを開催

演劇

演劇が根付いたまち

池袋モンパルナスがあった
アートのまち、音楽のまち

地域に息づく文化

地域が育む文化

東アジア文化都市を通じて文化芸術の浸透を

「国際アート・カルチャー都市」という壮大な構想の実現に、豊島区は大きな一歩を踏み出そうとしています。構想の核となる劇場群<Hareza池袋>は、人々が集い、賑わい、創造・発信する新たな「まちづくり」の土台であり、豊かな発想と行動力に裏打ちされた、重量感溢れる試みであります。

「東アジア文化都市2019」は、この「試み」のスタートを飾るに相応しい、正に「国際都市」実現への大きな起爆剤となり得る事業であります。

「豊島区民全員参加」が、事業目標の一番に挙げられております。私も豊島区民の一人として、成功に向け背水の陣で臨む覚悟でおりますことを申し上げ、「基本計画」に寄せる言葉と致します。

豊島区名誉区民
重要無形文化財 狂言 保持者(人間国宝)
日本芸術院会員
文化功労者
(公社)日本芸能実演家団体協議会 会長

野村萬



「ひと」が主役のまちづくり

2015年の新庁舎整備を契機に、「ひと」が主役のまちづくりが池袋駅周辺地域を中心に連鎖的に広がり、国際アート・カルチャー都市としてダイナミックに変貌を遂げようとしています。

豊島区のパワーの源泉は、国籍も年齢も職業も様々ないろいろな人が行き交うストリート性にあると感じます。21世紀の都市デザインのテーマはwalkable。歩いて楽しい要素がたくさんあることです。20世紀には、そういうストリート性、多様性に対して、ごちゃごちゃしているとか、あぶないとか、ネガティブな形容詞が使われていました。しかし、まったく時代は逆転したのです。そういう大逆転の街の代表が池袋なのです。

東アジア文化都市2019豊島では、コンパクトで利便性の高い都市としてのまちの魅力を最大限に発揮するとともに、まちなかを歩いて人々が出会い、文化を通じた交流がさらに深まることを期待しています。

建築家
豊島区都市政策顧問
隈研吾



©J.C.Carbonne

国際アート・カルチャー都市構想の実現に向けて

豊島区は多様性に富む豊かな文化を育んできました。そうした豊島区特有の文化資源を活かし、「文化の力」で日本の推進力となるまち、それが「国際アート・カルチャー都市としま」です。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会、さらにその先の文化レガシーの継承も視野に入れ、戦略的な取組みを進めていきます。多彩な文化プログラムの展開、世界に向けた発信力強化、そして人間優先の都市空間の創出を図り、都市構想の基本理念である「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」を目指します。

国際アート・カルチャー都市構想を実現する「3本の矢」

国際アート・カルチャー都市
プロデューサー

12名



文化芸術の最前線で活躍する11名のプロデューサーの斬新な発想を反映し、2015年3月、都市構想を策定しました。

国際アート・カルチャー都市
懇話会

30名



元文化庁長官の近藤誠一氏を会長に、文化芸術のトップリーダーをはじめとする委員からの答申を受け、2016年6月、都市構想を具体化するための実現戦略を策定しました。

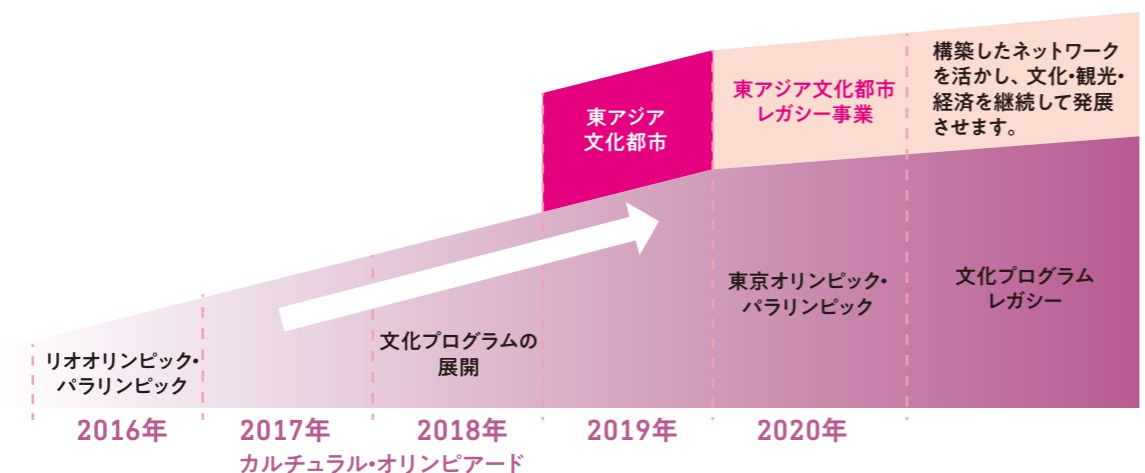
国際アート・カルチャー
特命大使

1457名

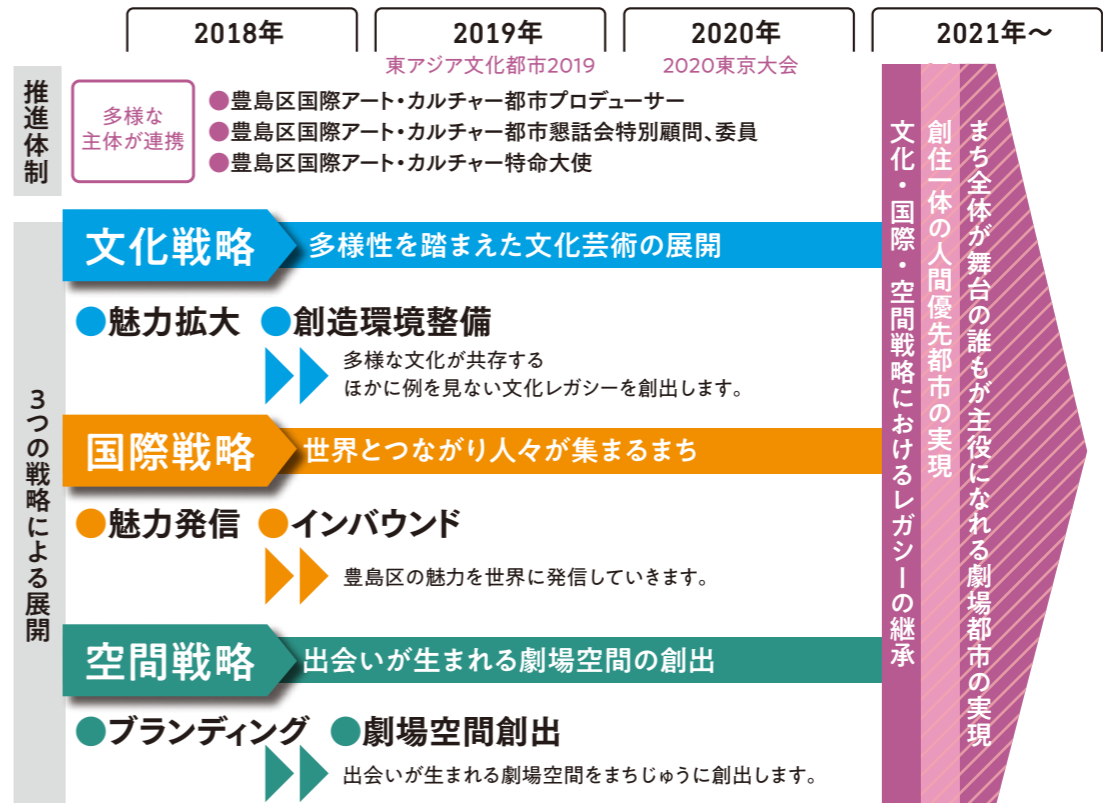


都市構想に賛同し、国際アート・カルチャーの裾野を広げる活動の担い手です。

平成30年11月末現在



実現に向けたロードマップ



東アジア文化都市を契機に3つの戦略をさらに推進します。

国際アート・カルチャー都市「としま」

いよいよ「東アジア文化都市」年がやってきます。私たちの豊島区が掲げたアートとカルチャーによるまちづくりは着実に芽を吹き根付こうとしています。最初は何のことかわからなかった区民の皆さんも旧豊島公会堂のところに姿を現した新ホールを含む「ハレザ池袋」の建設現場や池袋西口公園の「劇場公園」への改修プランをご覧になってびっくりされていることでしょう。すでに完成した豊島区役所や南池袋公園、さらに現在計画中の造幣局跡地の防災公園や新型BRTによる移動交通システムは全てアートやカルチャーの表現の空間となります。区民の皆さんからなる「アート・カルチャー特命大使」はこの運動のよき理解者で大切な推進役です。都市政策の中核にアートとカルチャーをすえた街は世界にも珍しく、その成果の第一弾が「東アジア文化都市」なのです。急速に変化する東アジアで大いに「文化都市としま」を発信し世界のお客様を豊島区にお迎えしようではありませんか。豊島区の未来に向かって!

(株)キョードー・ファクトリー代表取締役
国際アート・カルチャー都市チーフプロデューサー

前田三郎



日本、中国、韓国3か国、文化による交流と発展

「東アジア文化都市」は、日中韓文化大臣会合での合意に基づき、日本・中国・韓国の3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、その都市において、現代の芸術文化や伝統文化、また多彩な生活文化に関連する様々な文化芸術イベント等を実施するものです。これにより、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指します。

また、東アジア文化都市に選定された都市がその文化的特徴を生かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、事業実施を契機として継続的に発展することも目的としています。

横浜市(2014年)、新潟市(2015年)、奈良市(2016年)、
京都市(2017年)、金沢市(2018年)に続き、
豊島区が6番目の開催都市に決定しました。



開催都市	2014(H26)	2015(H27)	2016(H28)	2017(H29)	2018(H30)	2019(H31)
日本	横浜市	新潟市	奈良市	京都市	金沢市	豊島区
中国	泉州市	青島市	寧波市	長沙市	ハルビン市	西安市
韓国	光州広域市	清州市	済州特別自治道	大邱広域市	釜山広域市	仁川広域市



都市と文化が担うもの

日本のように成熟した国において、これから重要な役割を果たすのは、都市と文化だ。グローバル化や科学技術の急速な進歩の圧力の前で、国民がこころ豊かな人生を送れる場を提供し、政治や経済の建前や短期的の利害を超えて諸外国と交流する力を与えることができるのも文化だ。しかしその力を安全保障やマクロ経済政策などに集中せざるを得ない国家には、十分な文化政策を行うゆとりがない。

そのような状況の中で、私も出席した日中韓文化大臣会合で日本が提案し、合意された東アジア文化都市構想の果たす役割はこの上なく重要だ。そして豊島区が、東京オリンピック・パラリンピックの前年である2019年の、東アジア文化都市候補都市に選ばれた意義は大きい。高野区長の指揮の下、国際アート・カルチャー都市懇話会を開催するなど、目覚ましい文化振興策、国際交流策を進めているからだ。

これを機に豊島区が今後の東アジア交流の拠点となることを祈って止まない。



元文化庁長官
豊島区国際アート・カルチャー都市懇話会会長

近藤誠一

東アジアの平和構築に貢献して ノーベル平和賞を目指せ

「国と国」の政治的な関係が困難な今日においては、文化による交流、そして、「都市と都市」および「市民と市民」との交流をより積極的に推進していくことが必要です。

「東アジア文化都市」の目的は、「東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進」ですが、そのことは東アジア3か国の平和的な関係の構築にも大きく寄与するでしょう。それは日中韓の3か国にとって未来へ向けての大きな希望となりますので、十分に「ノーベル平和賞」の受賞に値する偉業となると信じています。



三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)芸術・文化政策センター長/主席研究員
豊島区国際アート・カルチャー都市懇話会副会長

太下義之

日中韓文化大臣会合

2018年8月30日、中国・ハルビン市で第10回日中韓文化大臣会合が開催され、三か国の文化大臣の合意により、中国「西安(シーアン)市」、韓国「仁川(インチョン)広域市」と共に、豊島区が2019年の東アジア文化都市に正式決定しました。



左から
 韓国:都 鍾煥(文化体育観光部長官)、朴 俊夏(仁川市副市長)、
 中国:雒 樹剛(文化・観光部長)、李 元(西安市副市長)
 日本:林 芳正(前文部科学大臣)、高野之夫(豊島区長)



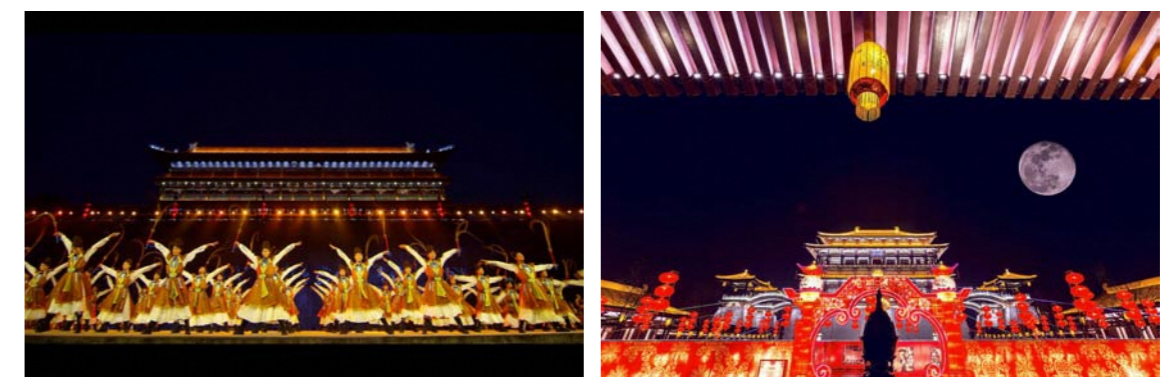
2019年東アジア文化都市選定記念品

交流都市紹介

西安市(中国)

人口 約825万人 面積 10,108km²
 URL <http://www.xa.gov.cn/>

中国西北地方の政治・経済・文化の中心地。シルクロードの東の起点として栄えた都市で、旧名は長安。紀元前11世紀から約2000年の間に、秦、漢、隋、唐など12の王朝の都だった。紀元前3世紀には、秦の始皇帝が万里の長城や壮大な墓を残し、墓を守る兵馬俑は西安最大の歴史遺産となっている。



交流都市紹介

仁川広域市(韓国)

人口 約302万人 面積 1,063km²

URL <http://www.incheon.go.kr/>

韓国西北部の黄海に面した韓国を代表する港湾都市。国際交易港である仁川港の繁栄とともに発展。2001年に開港した仁川国際空港によって新しい韓国の空の玄関口として、東北アジアの交通のハブ、国際物流の中心都市として注目されている。人口は、ソウル、釜山に次いで国内第3位。



2019年に完成する多くの施設等を
「東アジア文化都市2019豊島開催記念事業」
 とし、未来の世代に伝えるレガシーとします。

1 誰もが主役になれる劇場都市のシンボル・Hareza(ハレザ)池袋

「国際アート・カルチャー都市構想」をけん引するシンボルプロジェクト。
 8つの劇場が圧倒的なにぎわいを生み出します。

- ・2019年秋 芸術文化劇場、としま区民センターオープン予定
- ・2020年夏 Hareza(ハレザ)池袋グランドオープン予定



2 四季を通して個性あるイベントを開催・池袋駅周辺4公園

公園がまちを変える。歩いて楽しい回遊都市。4公園合計30,000㎡の劇場空間。それぞれの特色を活かし、土日祝日には誰もが参加できる多彩なイベントを随時開催します。

南池袋公園 2016年4月リニューアル



池袋西口公園 2019年秋リニューアル予定



中池袋公園 2019年秋リニューアル予定



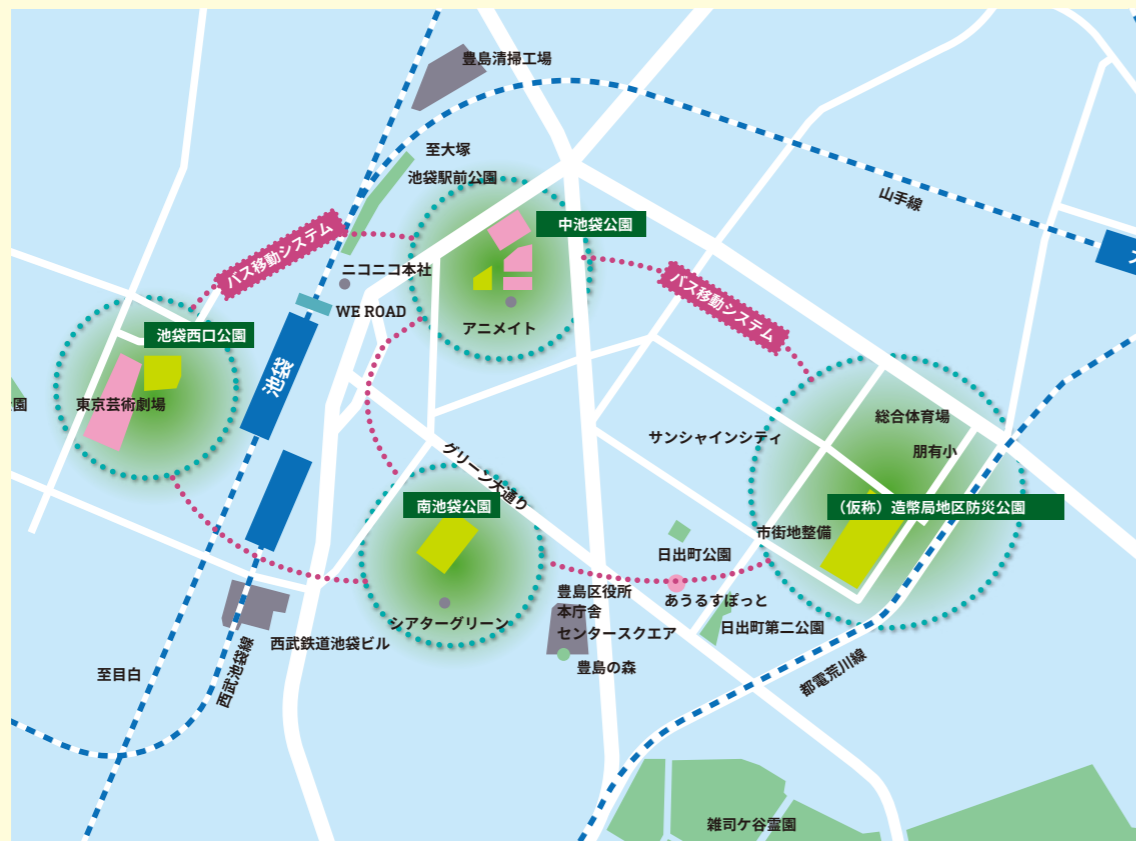
造幣局地区防災公園(仮称) 2020年春オープン予定



3 池袋の中心を回遊する環境と観光のシンボル・真っ赤な電気バス

池袋副都心内を安全に快適に移動できる新たな移動サービスとして、環境にやさしい電気バスを導入します。デザイナーの水戸岡鋭治氏が車両、バス停、制服等をトータルデザイン。4つの公園を中心に、四季を感じながらまちを回遊します。

・2019年運行開始予定



4 色で表現したアート空間へ再生・WE ROAD (ウイロード)

美術作家植田志保氏が池袋東西まちづくりの架け橋(ウイロード)の再生に挑戦。東アジア文化都市開催期間中は公開描画を行い、通路内の壁や天井を色で表現したアートな空間を造りだします。

・2019年10月竣工予定



5 (仮称)マンガの聖地としまミュージアム・トキワ荘の再現

手塚治虫をはじめ、多くのマンガ家が切磋琢磨した「マンガの聖地としま」を地域へ、世界へ発信する拠点となる(仮称)マンガの聖地としまミュージアム(トキワ荘の再現施設)を南長崎花咲公園に開設します。

・2020年3月オープン予定



全体統括 挨拶

「多様な未来に開かれた躍動する街へ」 —生命力溢れる文化の力を解き放とう—

豊島区が2019年第6回東アジア文化都市に選定されました。これは、日本・中国・韓国の東アジア各都市がそれぞれ歴史と文化に根ざした個性を発揮し、相互理解と友好を深めるための国際プロジェクトです。武蔵野台地に位置する豊島区は、明治後半から大正にかけて次々と鉄道が開通し、交通の要所として発展しました。ほぼ同じ頃、多くの学校が開校し、豊島区は教育と文化の街へと成長して行きます。戦前には芸術家たちが集まり、池袋モンパルナスの文化を生み出します。

しかし最大の活力は人々の暮らしから生まれてきました。豊島区の特徴は街の活動が人々の日々の生活と密接に結びついているところにあります。街とそこに住む人々が培ってきた多彩で様々な文化的活力が豊島の最大の魅力です。様々な文化的背景を持つ諸外国の人々を惹き付ける包容力もそこから生まれるでしょう。それぞれの地域に伝統的な祭りがあり、新しい祭りも生まれています。古くからの商店街にも最先端ファッションストリートにも、人々の暮らしの息づかいが感じられる街。それが豊島です。

2019年には池袋駅の東西に新しい劇場や広場がオープンし、東アジア文化都市2019豊島が新たな顔を見せてくれることでしょう。それは20世紀の初頭、戦後の復興・成長期に継ぐ第3の転形期、21世紀の豊島のはじまりを告げるファンファーレです。力を合わせて東アジア文化都市事業を成功させ、豊島区をアジアに輝かせましょう。



東アジア文化都市2019豊島実行委員会 全体統括

吉岡 知哉

1953年東京生まれ。前立教大学総長（2010年から2018年）。1976年に東京大学法学部第3類（政治コース）を卒業、1980年立教大学法学部助手に着任、1981年同講師、1983年同助教授、1990年同教授。2002年から2006年まで法学部長、2010年から2018年まで立教大学総長を2期（第19代・第20代）務める。2018年立教大学を定年退職。

一般社団法人日本私立大学連盟副会長、日本私立大学団体連合会副会長、公益財団法人大学基準協会常務理事、就職問題懇談会座長（文部科学省）、大学設置・学校法人審議会会長（文部科学省）、中央教育審議会大学分科会臨時委員（文部科学省）等を歴任。

専門は欧州政治思想史。主な研究領域は、近代政治思想、特に18世紀フランスの思想家ジャン=ジャック・ルソーについての研究。主著『ジャン=ジャック・ルソー論』東京大学出版会、1988年（渋沢・クロード賞受賞）。

シンボルロゴ

東アジア文化都市では毎年、日本・中国・韓国のそれぞれの開催都市が、シンボルとなるロゴを作成しています。東アジア文化都市2019豊島では、開催に向け、全員参加による一体感の醸成を図るため、一般の方々に3つの候補から1つを選び投票していただく、アンケート投票を実施し、2万人以上の方に投票していただき、決定しました。



【デザインコンセプト】

TOSHIMAの「T」をモチーフに3つの国の結束と躍動を表現しました。色とりどりの線の色は、多彩な文化、芸術、国籍などを表し、日本伝統の工芸品でもある組紐のような結び目は、絆や結束を表しています。同時に、結び目を中心にして伸びていく三本線は、エネルギー溢れる活き活きとした生命力を表現しています。

コンセプト「はらはら、どきどき、文化がいっぱい。」

「文化がいっぱい」には多文化という意味もあり、「はらはら」と「どきどき」の2つを合わせることで、よりわくわくする感じが出ます。東アジア文化都市2019豊島がすべての人々に楽しく、わくわくするものになるようお願い、コンセプトを考えました。

7つの目標

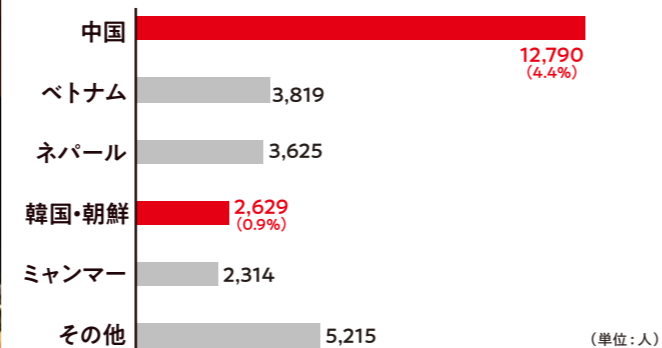
東アジア文化都市2019豊島では7つの目標を掲げ、この実現を目指していきます。

1 豊島区民の全員参加

豊島区民全員が鑑賞者・つくり手として東アジア文化都市2019豊島に参加いただけることを目指します。特に「文化事業の鑑賞や参加経験が少ない人々」、「豊島区の将来を担う若い世代の人々」、「豊島区に多数居住している中韓出身・中韓国籍の人々」を強く意識し、事業を展開します。



特命大使総会での東アジア文化都市事業説明



外国人住民の国籍別内訳 (平成30年7月5日現在)
中国、韓国・朝鮮の括弧書きは豊島区総人口 290,024 人に占める割合

2 豊島区の文化の再認識を通じたシビックプライドの醸成

豊島区は、池袋、巣鴨、駒込、雑司が谷、目白など、様々な特徴を持ったエリアによって構成されています。東アジア文化都市2019豊島では、このようなエリアに存在する豊島区の文化を再認識できるような文化事業を展開します。文化の再認識を通して区在住者・関係者の誇り(シビックプライド)が醸成されることを期待しています。



東アジア文化都市事業についての管理職研修



東アジア文化都市国内都市決定の区民報告会

3 国内外の人々の来訪による豊島区のブランディング

東アジア文化都市2019豊島には豊島区民だけではなく、国内外の多くの人々を迎え入れることを想定しています。これを通じて、「国際アート・カルチャー都市としま」としてのブランド価値を高めることを目指します。

4 各種施策横断によるオール豊島としての事業展開

東アジア文化都市2019豊島は単なる文化事業にとどまりません。観光・まちづくり・産業・子育て・教育・健康・福祉など様々な分野の政策の視点を盛り込みオールとしまとして事業を展開します。東アジア文化都市2019豊島開催後も文化の視点をそれぞれの政策に盛り込んでいけるような変革を目指します。

5 豊島区の未来を担う人材の育成

東アジア文化都市2019豊島は豊島区として大きなチャレンジとなる事業です。この準備・実現のプロセスに豊島区内外の文化に留まらない様々な才能を持った人々を巻き込むことで、豊島区の未来を担う人材の育成を図ります。



6 東アジア文化都市事業の継続性のあるモデルの提示

豊島区は東アジア文化都市がその理念に基づいて、今後も継続・発展していけるような魅力的な開催の在り方(モデル)を提示します。

7 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運の醸成及びリーダーシップの発揮

東京都では2020年に東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が控えています。また、これに向けて各地で文化プログラムが展開されます。豊島区では東京都と十分に連携を取りながら、東アジア文化都市をととして、いち早くこの機運を醸成するとともに、文化プログラムにおけるリーダーシップを発揮します。



事業の構造

東アジア文化都市2019豊島では「舞台芸術」、「マンガ・アニメ」、「祭事・芸能」の3つを事業の柱とし、スペシャル事業、パートナーシップ事業、フレンドシップ事業を展開します。

◆スペシャル事業

「スペシャル事業は、東アジア文化都市2019豊島の目玉として位置づけています。スペシャル事業は、「ディレクター事業」、「子ども向け事業・青少年交流事業」、「国際アート・カルチャー都市推進事業」、「開幕式典・閉幕式典・シンポジウム」から構成されます。

▼ディレクター事業

「舞台芸術」、「マンガ・アニメ」、「祭事・芸能」部門では、総合ディレクター・事業ディレクター等を置き、東アジア2019豊島のために新規に事業を創ります。魅力的かつ芸術性の高い事業を展開します。

▼子ども向け事業・青少年文化交流事業

東アジア文化都市2019豊島では、「未来を担う人材の育成」を目標の1つに掲げ、子どもや青少年を特に重要な対象としています。

子ども向け事業では、子どもが鑑賞者となることはもちろん、演技手・参加者としても関与し、印象に残る経験となるような事業を行います。

青少年文化交流事業では、3都市が相互に青少年を派遣し、一定期間各都市の文化をテーマに交流を行い、それぞれの相互理解を促進します。

▼国際アート・カルチャー都市推進事業

豊島区や(公財)としま未来文化財団が主催、共催、または補助等を行う事業(原則既存事業、一部新規事業)のうち東アジア文化都市2019豊島や国際アート・カルチャー都市の趣旨に該当するものについて、東アジアとの交流の観点から拡充し「国際アート・カルチャー都市推進事業」として展開します。

▼開幕式典・閉幕式典・シンポジウム

開幕式典・閉幕式典では、多くの人々にご参集頂き、3都市(中国西安市、韓国仁川広域市、日本豊島区)が都市や文化の特徴の紹介を行い、芸能団の公演を披露します。東アジアの文化の多様性を体感いただけるような機会となることを期待しています。

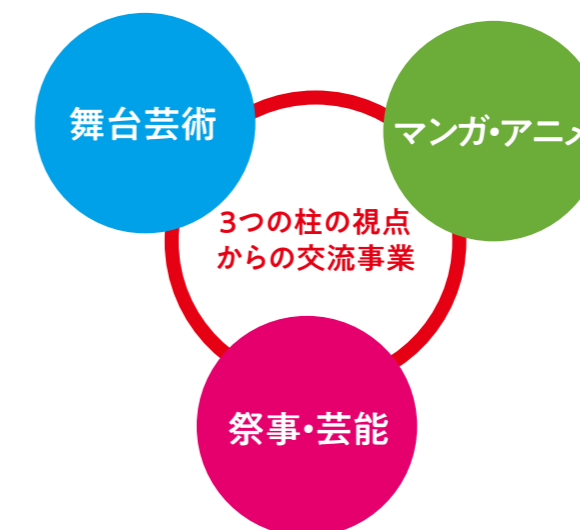
また、期間中には東アジアをテーマとしたシンポジウムも行い、3都市の文化や豊島区の柱とする3分野の実務家・専門家などにご登壇いただき、3都市の文化の理解を深めるとともに、より東アジア文化都市2019豊島を楽しんでいただけるきっかけを提供します。

◆パートナーシップ事業

民間団体が実施する東アジア文化都市2019豊島の目標に合致する取組みに対して公募・助成を行います。

◆フレンドシップ事業

東アジア文化都市2019豊島の趣旨に賛同する事業について、広報面で連携を行います。届出をいただいた事業は、東アジア文化都市2019豊島Webサイトに掲載されるとともに、各種広報物における東アジア文化都市2019豊島のロゴの使用が可能になります。そのほか各種広報ツール(のぼり等)の貸出を行います。



総合ディレクター・事業ディレクター

舞台芸術部門／マンガ・アニメ部門／祭事・芸能部門

全体総括 吉岡知哉

〈舞台芸術部門〉

総合ディレクター

宮城 聡

事業ディレクター

近藤良平、多田淳之介、石神夏希

〈マンガ・アニメ部門〉

総合ディレクター

古川タク

事業ディレクター

土居伸彰、山内康裕

〈祭事・芸能部門〉

部門責任者

東澤 昭

事業推進担当

としま未来文化財団

◆舞台芸術部門 総合ディレクター どうして「東アジア文化都市」?

「隣人」といかに共存共栄するか。

これはかねてより人類に課せられた宿題と言ってもいいでしょう。

人間というのは面白いもので、自分とは何から何まで異なっている他者と出会う際には、自分と比べることもできないので、対抗意識もわきません。ところがかなりの部分で共通している「隣人」に対しては、共有するものが多いからこそ違っている部分が気になり、対抗意識が生じ、時にコンプレックスを感じます。そのために逆に威張ったり、謝りたくても謝れなくなったりもします。

でもこの緊張関係は、文化芸術においてはプラスに作用します。なぜなら文化芸術の競い合いには「敗者」がないからです。わずかな差異をクローズアップすることでお互いの文化芸術が洗練されてゆきます。アジアの輝かしい文化遺産群がそれを証明しています。

文化という窓を通して隣人と向き合う。

舞台芸術はまさにそのための土俵です。「違うから面白いんだ!」という発見のためのプラスコです。ひとつのモノサシで全員を測る競技ではなく、どんどんモノサシを増やしてゆくゲームです。この愉快的なゲームに参加する住民が増えれば増えるほど、その地域は寛容で、住みやすく、そして活気ある場所になるでしょう。すでに豊島区はその方向に向かって歩を進めていますね。2019年は、その歩みが、誰の目にも見える形をつくる年となることでしょう。



撮影:新良太

みやま ありさとし 宮城 聰

1959年東京生まれ。演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。東京芸術祭総合ディレクター。東京大学で小田島雄志・渡辺守章・日高八郎各師から演劇論を学び、1990年ク・ナウカ旗揚げ。国際的な公演活動を展開し、同時代的テキスト解釈とアジア演劇の身体技法や様式性を融合させた演出で国内外から高い評価を得る。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、またアウトリーチにも力を注ぎ「世界を見る窓」としての劇場運営をおこなっている。2017年『アンティゴネ』をフランス・アヴィニョン演劇祭のオープニング作品として法王庁中庭で上演、アジアの演劇がオープニングに選ばれたのは同演劇祭史上初めてのことであり、その作品世界は大きな反響を呼んだ。他の代表作に『女王メデア』『マハーバーラタ』『ペール・ギュント』など。2006年～2017年APAF-アジア舞台芸術祭(現アジア舞台芸術人材育成部門)プロデューサー。2004年第3回朝日舞台芸術賞受賞。2005年第2回アサヒビール芸術賞受賞。2018年平成29年度第68回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。舞台芸術部門事業ディレクター

◆舞台芸術部門 事業ディレクター



撮影:HARU

こんとうりょうへい 近藤 良平

振付家・ダンサー、コンドルズ主宰。NHK「サラリーマンNEO」、「からだであそぼ」、「てっぺん」オープニングなどの振付を担当。第4回朝日舞台芸術賞山修司賞、第67回芸術選奨文部科学大臣賞受賞。立教大学などで非常勤講師としてダンスを指導。コンドルズは2016年に20周年記念となるNHKホール公演を敢行、前売券即日完売。現在、NHKエデュケーションと共に関西からの観客参加型公演「コンドルズの遊育計画」や埼玉県と共に「近藤良平と障害者によるダンス公演」ハンドルズ公演など、多様なアプローチでコンテンポラリーダンスの社会貢献に取り組む。今年、第67回横浜文化賞受賞。南米育ち。愛犬家。



撮影:平岩享

ただじゅんのすけ 多田 淳之介

1976年生まれ。演出家。東京デスロック主宰。富士見市民文化会館キラリふじみ芸術監督。APAF-アジア舞台芸術人材育成部門ディレクター。東京芸術祭プランニングチームメンバー。高松市アートディレクター。四国学院大学非常勤講師。古典、現代戯曲、ダンス、パフォーマンス作品まで、現代の当事者性をフォーカスしたリアルな作品を立ち上げる。全国の文化施設、教育機関で演劇を専門としない人との創作、ワークショップも積極的に行い、演劇の持つ対話力・協働力を広く伝える。韓国、東南アジアとの海外共同製作も多数。2014年韓国の第50回東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。



撮影:菅原康太

いしがみなつき 石神 夏希

劇作家。NPO法人 場所と物語 理事長。The CAVE 共同創立者・共同ディレクター。1999年よりベニン建築設計を中心に活動。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。近年は横浜を拠点に国内各地や海外に滞在し、都市やコミュニティを素材にサイトスペシフィックな演劇やアートプロジェクトを手がける。また『Sensuous City [官能都市]』(HOME S総研)をはじめとする調査研究、東京都およびアーツカウンシル東京との共催事業『東京ステイ』ディレクター、遊休不動産を活用したクリエイティブ拠点『The CAVE』の立ち上げなど、都市に関するさまざまなプロジェクトに携わる。

▼舞台芸術部門 ディレクター事業紹介



アトカル・マジカル学園

3月～11月

会場:地域文化創造館、豊島区内各所

「変身する」をキーワードに舞台芸術を身近に楽しむ教室が区内各地に出張開校。子どもも大人も老若男女全世代に向けたプログラム。



御会式と鬼子母神にまつわる演劇プロジェクト

10月9日(水)～18日(金) (予定)

会場:あうるすぽっと、豊島区内各所

江戸時代から続く祭り「御会式」をテーマとしたゲーム性の高い区民参加型の演劇プロジェクト。ツアーパフォーマンス等を通じて地域の魅力を再発見する。



Photo © HARU

Bridges to Babylon ～みんなのダンス～ (仮)

11月20日(水)～23日(土) (予定)

会場:Hareza 池袋 芸術文化劇場

「にゅ～盆踊り」の近藤良平構成・振付による新作ダンス公演、「祝祭」をテーマに区民も参加して、芸術文化劇場にて上演。



Photo © Yasuo Inokuma

マハーバーラタ

—東アジア文化都市2019豊島バージョン—

11月23日(土)、24日(日)

会場:池袋西口公園 野外劇場

インドの古代叙事詩をもとに描き出す美しく壮大な愛の物語。世界で絶賛を浴びる宮城聰の祝祭音楽劇が、新たに豊島区版としてお披露目!

◆マンガ・アニメ部門 総合ディレクター 文化が交流するということ

1980年に手塚治虫を団長として「青年の船」にて初めて上海美術電影という国営のアニメーションスタジオをアニメーション仲間たちで訪れた。まだ当時のJALのCAさんたちはタラップの下に降りられなかった時代だ。「芸術はいいですね、私たちの分まで一所懸命交流して来て下さいね」彼女たちの本心だった。文化大革命以前にそのスタジオで作られた素晴らしい水墨画アニメーションを初めて見た時の衝撃は今も忘れられない。数年後、こんどはマンガ家仲間と北京を訪れた。マンガを懸命に探したが、人民日報の政治漫画か連環画の本を見つけただけだった。そのかわり当時まだ残っていた精巧に作られたブリキヤセルロイド製の玩具をみんなで買い込んだ。

1997年ソウルで初めてアニメーションエキスポという国際的なフェスティバルが催された。牽引役はアニメーション好きな二人の若者、彼らがパイオニアだった。

そして時は過ぎ、2019年の春、豊島が座を提供しての東アジア3都市の未来に繋がる、まったく新しいタイプの文化交流事業がスタートする。ワクワクする企画が現在進行中です。みなさん、是非あそびに来て下さいね。

近頃なにかと東アジアに関する話題が多くなってきた。しかし我々庶民感覚から言わせてもらおうと、昨日まであんなに親しかった近所の友人たちとのおつきあいがなんだかよそよそしい。ギクシャクまではいかないものの、どうもしくりいってない。だからマンガ、だからアニメでひとつ、という話ではない。



ふるかわ 古川 タク

1941年三重県出身。アニメーション作家、イラストレーター、絵本作家。日本アニメーション協会会長。文化庁メディア芸術実行委員会運営委員。手塚治虫に憧れて、三重県での高校時代から漫画を描き始める。大阪外国語大学在学中にアニメーションに出会い、卒業後、久里洋二実験漫画工房に入社。1970年に独立して、タンク漫画BOXを設立する。フリーのひとコママンガ家、イラストレーター、アニメーション作家として活動。NHK「みんなのうた」やテレビCMのアニメーションも多数手がける。アヌシー国際アニメーション映画祭審査員特別賞、第25回文藝春秋漫画賞、文化庁メディア芸術祭優秀賞など受賞。東京アニメアワードフェスティバル2017にて、アニメ功労部門顕彰を受ける。2004年紫綬褒章、2012年旭日小綬章を受章。

◆マンガ・アニメ部門 事業ディレクター

と い の ぶ あ き 土居 伸彰



1981年東京生まれ。株式会社ニューディアー代表、新千歳空港国際アニメーション映画祭フェスティバル・ディレクター。ロシアの作家ユリー・ノルシュテインを中心とした非商業・インディペンデント作家の研究を行うかわら、AnimationsやCALFなど作家との共同での活動や、「GEORAMA」をはじめとする各種上映イベントの企画、「ユリイカ」等への執筆などを通じて、世界のアニメーション作品を広く紹介する活動にも積極的に関わる。2015年にニューディアーを立ち上げ、海外作品の配給を本格的にスタート。国際アニメーション映画祭での日本アニメーション特集キュレーターや審査員としての経験も多い。著書に『個人的なハーモニー ノルシュテインと現代アニメーション論』、『21世紀のアニメーションがわかる本』（いずれもフィルムアート社）など。

や ま う ち や す ひ ろ 山内 康裕



1979年東京生まれ。マンガナイト/レインボーボード合同会社代表。「さいとう・たかを劇画文化財団」理事、「国際文化都市整備機構」監事。2009年、マンガを介したコミュニケーションを生み出すユニット「マンガナイト」を結成し代表を務める。イベント・ワークショップ・デザイン・執筆・選書を手がける。2010年にレインボーボード合同会社を設立し、「マンガ」を軸に施設・展示・販促・商品等のコンテンツプロデュース・キュレーション・プランニング業務等を提供している。主な実績は「立川まんがば〜く」「東京ワンピースタワー」「池袋シネマチ祭2014」「日本財団これも学習マンガだ!」「アニメorange展」等。共著に『『ONE PIECE』に学ぶ最強ビジネスチームの作り方(集英社)』、『人生と勉強に効く学べるマンガ100冊(文藝春秋)』等。

▼マンガ・アニメ部門 ディレクター事業紹介



オープニング展示

オールとしま・ウエルカム・東アジア

2月1日(金)～3日(日)

会場:東京芸術劇場 ギャラリー1

東アジア文化都市2019豊島の開幕を祝う、官・民が連携をとりながら発展してきた豊島とマンガ・アニメのつながりを、過去・現在・未来にわたって紹介する展示。



マンガ・アニメ3.0

2月～11月

WEBサイト上で展開

マンガとアニメの魅力が多角的に紹介する記事を、様々な研究者やジャーナリスト、そしてメディアと協力しながら全世界へ発信していくプログラム。



としマンガとしアニメ キャラバン

4月～11月

会場:豊島区内各所

マンガ・アニメを「読む・観る」だけでなく、「語る・創る」ワークショップを区内全体を回って行う移動式プログラム。



としま国際マンガ・アニメ祭(仮)

11月15日(金)～17日(日)(予定)

会場:豊島区役所本庁舎1Fとしまセンタースクエア

東アジアを対象としたコンペやシンポジウム、展示、ハッカソン等複合的なプログラムを通しマンガ・アニメの未来を作るフェス。



オープニング展示

区庁舎がマンガ・アニメの城になる

2月1日(金)～11日(月祝)

会場:豊島区役所本庁舎

豊島区役所を会場に、マンガ・アニメの魅力や多様性を伝える展示。期間中はコスプレをした職員による案内なども実施。



マンガ・アニメ区役所

「マンガのマンガ展」ほか

4月～11月

会場:豊島区役所本庁舎

マンガ家についてのマンガをテーマとした作品を特集する「マンガのマンガ展」を中心に、年間を通して区庁舎を会場に展示企画を実施。



トキワ荘の記憶(仮)

8月～11月(予定)

会場:豊島区南長崎エリア

2020年のトキワ荘復元ミュージアム開設に向けて、トキワ荘をめぐる記憶を探っていく地域密着型プログラム。

◆祭事・芸能部門 責任者

受け継がれるもの／生まれ出るもの

文化について考えるとき、もっとも重要なのは、それがいかにその土地や場所の持つ固有の歴史や記憶として人々のなかに共有されているか、地域のアイデンティティと分かちがたく結びついているか、ということであるとされます。

かつて江戸時代の豊島区地域は、当初ほぼ全域が純農村地帯であったと考えられていますが、その後、一部の街道筋や寺社門前地域で町場化が進み、さらに明治期以降、関東大震災や戦争という惨禍を乗り越え、交通網の発展とともに急激な人口流入と増加を経験するなかで、多様性に富む豊かな文化資源を生み出してきました。

とりわけ祭事や郷土芸能は、五穀豊穡や病気平癒など、日々の平穏を願う人々の暮らしのなかに脈々と受け継がれ、地域ごとに独自の発展を遂げてきました。同時に私たちは、それらが地域性を超えて広く共通するものであることを、日本各地や世界各国の民俗芸能を見、触れ合うことによって知ることができます。東アジア文化都市事業の「祭事・芸能部門」では、このように地域に深く根差した文化とともに、幾多の時代を経るなかで洗練を極め、異なる世界との出会いや融合によって生まれた文化芸術の新たな側面にも触れていただきたいと思います。

ローカルな地域性に根差した独自の文化が、グローバルな普遍性を持って世界とつながり、古典的な芸術が現代における最先端の文化とダイナミックに交差し、融合する、その奇跡のような瞬間に皆さんとともに立ち会えることを心から楽しみにしています。



公益財団法人としま未来文化財団 常務理事

東澤 昭

公益財団法人としま未来文化財団の概要

1985年4月、豊島区における区民文化施設・スポーツ施設等の管理運営や区民文化活動の振興発展を目的として設立された。当初は「財団法人コミュニティ振興公社」という名称であったが、2005年4月、「財団法人街づくり公社」を統合し、文化と都市再生をキーワードとする「財団法人としま未来文化財団」が誕生、2011年4月に公益財団法人に移行した。その発足以来、一貫して豊島区における文化政策推進の一翼を担い、2008年度における「文化庁長官表彰(文化芸術創造都市部門)」受賞に貢献するとともに、区が標榜する「国際アート・カルチャー都市」の実現に向け、多彩な文化芸術事業等を展開している。2016年度には、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりへの功績により、運営を担う区立劇場「あうるすぽっと」が、一般財団法人地域創造の「地域創造大賞(総務大臣賞)」を受賞した。

▼祭事・芸能部門 ディレクター事業紹介



第32回としま能の会

7月15日(月祝)

会場:東京芸術劇場 プレイハウス

豊島区にゆかりのある一流の出演者による能楽公演。解説パンフレットや関連ワークショップなど、はじめての鑑賞でも楽しめる。



伝統芸能@野外公演

9月(予定)

会場:未定

屋外に特設した能舞台で、様々な伝統芸能を上演。特別公演『ひとはおどる』では全国の民俗舞踊を一挙に紹介。



第31回民俗芸能inとしま

11月4日(月祝)

会場:Hareza 池袋 芸術文化劇場

「富士元囃子」「長崎獅子舞」など区指定無形民俗文化財である民俗芸能と豊島区姉妹・友好・交流都市の郷土芸能を紹介。



大田楽 いけぶくろ絵巻

11月(予定)

会場:未定

華やかな衣裳、雅な音楽、躍動的な舞が織り成す大田楽が、まちゆく人を絵巻の世界へ誘う野外パフォーマンス。

▼子ども向け事業・青少年文化交流事業 未来を担う人材の育成につながる プロジェクトを展開します。



▼子ども向け事業



10,000人で歌う 「わたしは未来」プロジェクト

会場：豊島区内各所

区内の小中学生を始めとして日中韓の子ども達で日中韓の心をつなぐ歌「わたしは未来」を大合唱し、3か国の相互理解を促進します。



東アジア文化都市2019豊島 子ども文化プログラム

会場：豊島区内各所

舞台芸術、マンガ・アニメ、祭事・芸能分野において、子ども達が中心となって楽しめる魅力的な事業を多数展開。

▼青少年文化交流事業

中国西安市、韓国仁川広域市と日本豊島区の3都市が、相互に青少年を派遣しあい、現地の青少年も交えて、一定期間各都市の文化をテーマに交流を行います。それぞれの相互理解を促進するとともに、東アジア2019豊島の目標の1つでもある「未来を担う人材の育成」につながることを期待しています。

【先催都市の事業実施例】

各都市の特徴を活かした文化体験

日本： 伝統芸能、芸術祭、食、農業、音楽、書道などの体験

中国： 茶道、書道、囲碁、水墨画、中国武術などの体験

韓国： 韓国舞踊、K-POP、テコンドー、韓紙づくりなどの体験

主な国際アート・カルチャー都市推進事業の紹介

舞台芸術分野



中国国家話劇院

リチャード三世

4月5日(金)～7日(日)

会場：東京芸術劇場 プレイハウス

英国グローバル・シェイクスピア・フェスティバルに招聘され、世界各国で好評を博し、中国国家芸術院団優秀演目賞を受賞した話題作の日本初演。



子どもに見せたい舞台 vol.13

春春 ～ボムボム～ (仮)

7月20日(土)～28日(日)

会場：あうるすぽっと

「としまアート夏まつり」メイン企画として韓国作品を翻案し、0歳児から大人までの全世代が楽しめる舞台を創作・上演。

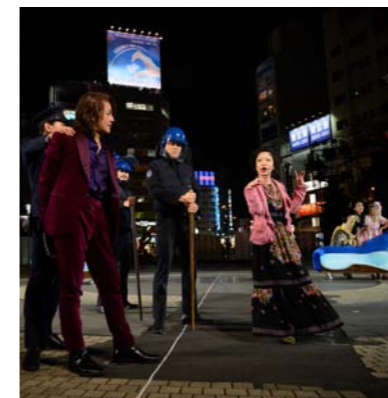


第31回 池袋演劇祭

9月1日(日)～30日(月)

会場：豊島区内の劇場

豊島区内の劇場で約1ヶ月にわたり開催される地域密着型演劇祭。審査員を一般公募するなど、誰でも参加できる特色を持つ。



東京芸術祭

東京芸術祭は東京の多彩で奥深い芸術文化を通して世界とつながることを目指した、都市型総合芸術祭です。直轄プログラムに加え、それぞれに特色を持った4つの舞台芸術の事業(フェスティバル/トーキョー、芸劇オータムセレクション、としま国際アート・カルチャー都市発信プログラム、APAF-アジア舞台芸術人材育成部門)を豊島区・池袋を中心に、都内各地で展開しています。東アジア文化都市2019豊島は東京芸術祭と連携して開催いたします。



Photo © Nah Seung-yeol, Provided by National Theater Company of Korea.

韓国国立劇団

殺し屋ですよ

～星新一ショートショート・オムニバス～ (仮)

5月～6月

会場：東京芸術劇場 シアターイースト

SF短編の名手・星新一のショートショート集を舞台化。脚本・演出：野田秀樹「半神」の日韓共同制作を行った韓国国立劇団の招聘公演！



NEW にゅ～盆踊り 一東アジアスペシャル

8月12日(月祝)(予定)

会場：未定

池袋西口公園の夏の風物詩「にゅ～盆踊り」の新作を創作。日本在住の中国と韓国の子どもの踊り手に迎え、特別な盆踊りを展開。



Photo © Takashi Fujikawa

東京芸術祭

フェスティバル/トーキョー 19

10月～11月(予定)

会場：池袋の劇場を中心に豊島区内各所

舞台芸術の魅力を多角的に紹介し、アートの新たな可能性を追求する国際舞台芸術祭。演劇やダンスの上演のほか、トークなども開催。

主な国際アート・カルチャー都市推進事業の紹介

マンガ・アニメ分野



Photo © TAAFE. All Rights Reserved.

東京アニメアワードフェスティバル2019

3月8日(金)～11日(月)

会場：池袋駅周辺映画館ほか

日本を代表する国際アニメーション映画祭。国内外のアニメーション作品を上映する他、ワークショップやシンポジウムなども実施。



としまマンガ・アニメフェスタ

11月(予定)

会場：豊島区役所本庁舎1Fとしまセンタースクエア

コンセプトは「マンガとアニメがつながる2日間」。トークショーやマンガ家体験教室など、マンガ・アニメの楽しさを体感できる。

祭り・芸能分野



Photo © 新幹道

第47回東京大塚阿波おどり

8月(予定)

会場：南大塚大通り、TRAMパル大塚

1972年(昭和47年)から続く都内屈指の阿波踊り。南大塚大通りを舞台に、千人以上の踊り手たちが熱気あふれる踊りを披露。



雑司ヶ谷鬼子母神

御会式万灯練供養

10月16日(水)～18日(金)

会場：鬼子母神堂

毎年10月16日～18日に行われる、地域最大の伝統行事。和紙で作った桜花をまとった数十台の万灯が練り歩く、幻想的な秋の風物詩。豊島区指定無形民俗文化財。



提供：池袋ハロウィンコスプレフェス2017/niconico

池袋ハロウィンコスプレフェス2019

10月(予定)

会場：池袋東口エリア

池袋東口エリアで開催される日本最大級のコスプレイベント。国内外から1万人以上が参加し、様々なステージイベントも行われる。



© jura © AGF2018

アニメイトガールズフェスティバル2019

11月(予定)

会場：サンシャインシティほか

アニメやゲームなどの女性向けコンテンツが一堂に会する世界最大級のイベント。人気声優のイベントをはじめ、様々な催事を実施。



第52回ふくろ祭り

9月、10月(予定)

会場：豊島区内各所

9月と10月に開催される豊島区最大規模の区民祭り。9月には壮大な『御輿の祭典』、10月には『踊りの祭典』を繰り広げる。



提供：ふくろ祭り協議会

第20回東京よさこい

10月(予定)

会場：池袋駅西口、豊島区内各所

よさこい踊りの強豪チームが全国から参加する、都内最大級のよさこいイベント。区内8会場で様々なスタイルの踊りが披露される。

その他(音楽・アートなど)の分野



2019パラアートTOKYO国際交流展

2月、11月(予定)

会場：豊島区役所本庁舎1Fとしまセンタースクエア

障害者の芸術文化を国内外に発信する国際展覧会。日・中・韓を中心に、世界各国の作家による絵画や書などの幅広い作品を展示。



提供：池袋ジャズフェスティバル実行委員会

池袋ジャズフェスティバル2019

5月(予定)

会場：未定

街中に心地よいサウンドがあふれるストリート・フェスティバル。池袋西口一帯を会場にジャズをはじめ、様々なライブを実施。



提供：池袋フォーク&カントリーフェスティバル実行委員会

池袋フォーク&カントリーフェスティバル2019

6月(予定) / 会場：未定

例年、池袋西口公園で開催されるフォークとカントリーソングを中心とした音楽の祭典。野外ライブと同時に地域のグルメも味わえる。



TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL 2019 [サラダ音楽祭]

9月(予定)

会場：東京芸術劇場ほか

赤ちゃん入場OKなコンサートなど、東京都交響楽団を中心に行う、フレッシュで多彩なメニューが揃う「サラダ」のような音楽祭。



提供：新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館実行委員会

新池袋モンパルナス西口まちかど回遊美術館

5月16日(木)～29日(水)

会場：池袋西口エリアほか

「まちのどこもが美術館」がコンセプトの文化イベント。池袋ゆかりの芸術家、学生や子どもによる作品などを60か所以上で楽しめる。



アートオリンピア2019

6月8日(土)～16日(日)

会場：豊島区役所本庁舎1Fとしまセンタースクエア

才能ある芸術家の発掘と活動の支援を目的とした国際公募展。区庁舎を会場に、公開審査と受賞作品展を開催。中韓特別枠を設置。



提供：東京フラフェスタ in 池袋実行委員会

東京フラフェスタ in 池袋2019

7月(予定)

会場：池袋西口、大塚駅前、サンシャインシティなど

池袋をハワイー色に染め上げる日本最大級のイベント。4千人以上の参加者が会場を盛り上げ、友好都市の物産展なども開催。



区民が祝う芸術文化劇場

11月(予定)

会場：Hareza 池袋 芸術文化劇場

新規オープンする芸術文化劇場において、複数の区内文化団体が、こけら落としシリーズの一環として、祝祭感あふれる演目を上演。

◆パートナーシップ事業

民間団体が実施する東アジア文化都市2019豊島の目標に合致する取り組みに対して公募・助成を行います。パートナーシップ事業は、「東アジア発信プログラム」と「東アジア全員参加プログラム」の2つの区分を設けます。

①東アジア発信プログラム

助成額：補助対象経費の4/5 ※限度額300万円
採択件数：3件程度

②東アジア全員参加プログラム

助成額：補助対象経費の全額 ※限度額30万円
採択件数：100件程度

助成対象事業の要件

以下の条件に全てあてはまる事業を助成対象とします。

①東アジア発信プログラム	②東アジア全員参加プログラム
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年1/1～12/31に豊島区内で実施され、東アジア文化都市2019豊島の目標に合致する事業 ・ 新たに実施する事業又は従来の規模を拡充して実施する事業 	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下の目標の両方に合致する事業 a. 国内外の人々の来訪による豊島区のブランディング b. 豊島区の未来を担う人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いずれかの目標に合致する事業

◆フレンドシップ事業

東アジア文化都市2019豊島では、主催事業だけでなく、様々な区民団体の皆様が行うフレンドシップ事業も一体となってオールとしまで1年間を盛り上げます。

主なフレンドシップ事業の紹介



節分会・豆まき

2月3日(日)

会場：鬼子母神堂、高岩寺、金剛院

無病息災・平穏無事を祈願し、年男・年女らが豆をまく。縁の著名人を招き「福は内」の掛け声のみで豆をまく。



商人まつり

2月～

会場：豊島区内各所

9地域の活性化と区内商業の振興を目的に区内各所で開催。物産観光展では、区と交流のある地方都市の観光と特産品を紹介。



第12回 豊島区障害者美術展「ときめき想造展」

3月13日(水)～17日(日)

会場：豊島区役所本庁舎1F としまセンタースクエア

障害への理解と社会参加の促進を目指す区内の障害者による公募美術展。自由な発想から生まれた素晴らしい作品を多数展示。



桜まつり

3月下旬～

会場：豊島区内各所

「ソメイヨシノ発祥の地」である豊島区の各所で開催。地域によるセレモニー、アトラクション、模擬店など様々な催しを実施。



長崎神社獅子舞祭

5月12日(日)

会場：長崎神社

獅子が太鼓を打ち鳴らしながら、五穀豊穡・疫病退散を祈って踊る。江戸時代から伝わる豊島区指定無形民俗文化財。



大塚バラまつり〈春・秋〉

5月、10月

会場：TRAMパル大塚、都電「大塚」から「向原」までの沿線

大塚バラロード約700品種1,100株と駅前広場約400株のバラの祭典。セレモニー、バラ苗の即売会、音楽ライブなどを実施。

主なフレンドシップ事業の紹介



おおつか音楽祭

6月(予定)

会場:大塚駅南口周辺、南大塚ホールなど

大塚の街の魅力を再発見し、新しい付加価値をもった街づくりを目指す音楽祭。まちかどライブや区民参加型コンサートなどを実施。



第21回ふれあい文化祭

9月(予定)

会場:豊島区役所本庁舎 1Fとしまセンタースクエア

絵画や書の展示、楽器演奏やパフォーマンスなど、さまざまな種類の芸術に触れる機会を創出。障害者団体が主催。



TIFFCOM 2019

10月(予定)

会場:サンシャインシティ コンベンションセンター

映像・TV・アニメーションなどの国際見本市を集約し、コンテンツの垣根を越えたアジアを代表するコンテンツマーケット。



豊島区総合美術展

11月

会場:東京芸術劇場 ギャラリー 1・2

豊島区内で活動する「豊島区書道会」「豊島区美術家協会」「豊茶華文化連盟」の三団体による書、美術、いけ花の作品展示。



南長崎「夢の虹」イベント

8月(予定)

会場:南長崎トキワ荘通り周辺

自分の「夢」のイラストを描き「トキワ荘通り」に全長約300メートルの巨大な虹のモザイクアートを創出。地域のグルメも楽しめる。



地域文化創造館文化祭

10月

会場:地域文化創造館(南大塚・駒込・巣鴨・雑司が谷・千早)

5つの地域文化創造館で活動している生涯学習団体の学習成果の発表と相互の交流の機会として、各館で毎年10月に開催。



第27回豊島区伝統工芸展

10月(予定)

会場:豊島区役所本庁舎 1Fとしまセンタースクエア

豊島区伝統工芸保存会に所属する職人が一堂に会し、歴史と伝統に培われた「匠の技」の実演、体験、展示販売などを実施。



第27回すがも中山道菊まつり

11月(予定)

会場:江戸六地藏尊眞性寺、大正大学

江戸時代に園芸の里として愛された巣鴨で開催。「菊の形造り」や中山道をテーマとした「菊花盆景」などを展示。



区民ひろばまつり

年間を通して随時

会場:各地域区民ひろば

赤ちゃんからお年寄りまでどなたでも利用できる区民ひろばで、地域の方々と一緒に各地区の特色を活かしたひろばまつりを実施。



第3回子どもスキップまつり

11月(予定)

会場:としまセンタースクエア

全22の子どもスキップと放課後子ども教室、中高生センタージャンプが一体となり、ステージ発表を中心に日常の活動を紹介。



スケジュール

東アジア文化都市2019豊島では2月1日の開幕式典を皮切りとした5月上旬までの期間と、8月中旬から11月24日の閉幕式典までの期間のそれぞれをコア期間として位置づけています。これらの期間に、ディレクター事業、国際アート・カルチャー都市推進事業、パートナーシップ事業などを集中的に展開していきます。

▼開幕式典・閉幕式典

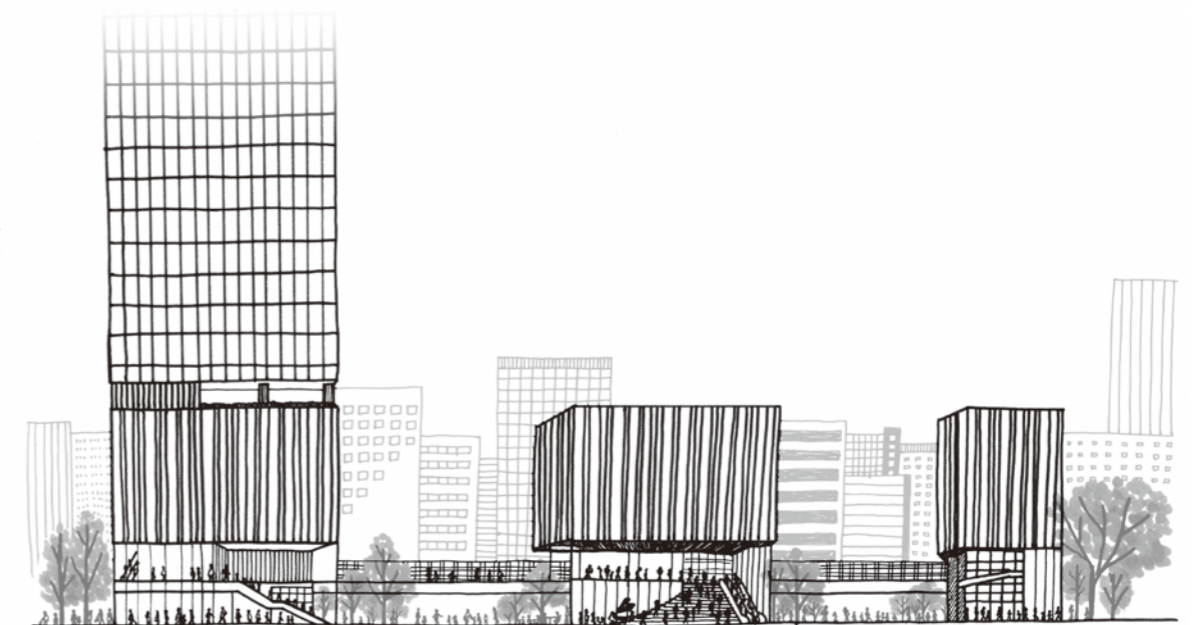
開幕式典は2019年2月1日(金)に東京芸術劇場コンサートホールにて、閉幕式典は2019年11月24日(日)にHareza池袋 芸術文化劇場(2019年秋オープン)にて実施します。

開幕式典

日程:2019年2月1日(金)

会場:東京芸術劇場 コンサートホール(収容:1,999名)

2019年の東アジア文化都市である中国西安市、韓国仁川広域市と日本豊島区の3都市が一堂に会した式典、それぞれの都市から派遣された芸能団によるステージパフォーマンスなどで、東アジア文化都市2019豊島の開幕を祝います。



閉幕式典

日程:2019年11月24日(日)

会場:Hareza池袋 芸術文化劇場(収容:1,300名)

2019年11月にオープンするHareza池袋 芸術文化劇場にて東アジア文化都市2019豊島を締めくくる閉幕式典を行います。3都市による交流の成果の振り返りや3都市芸能団によるステージパフォーマンス、2020年開催都市への引き継ぎ式を行います。



2019年
2月1日
開幕式典!
東京芸術劇場
コンサートホール

2019年、年間を通じて
多様なプログラム・イ
ベントを展開!
春と夏のコア期間には
より一層の文化体験を!

Hareza池袋に
芸術文化劇場が
オープン!

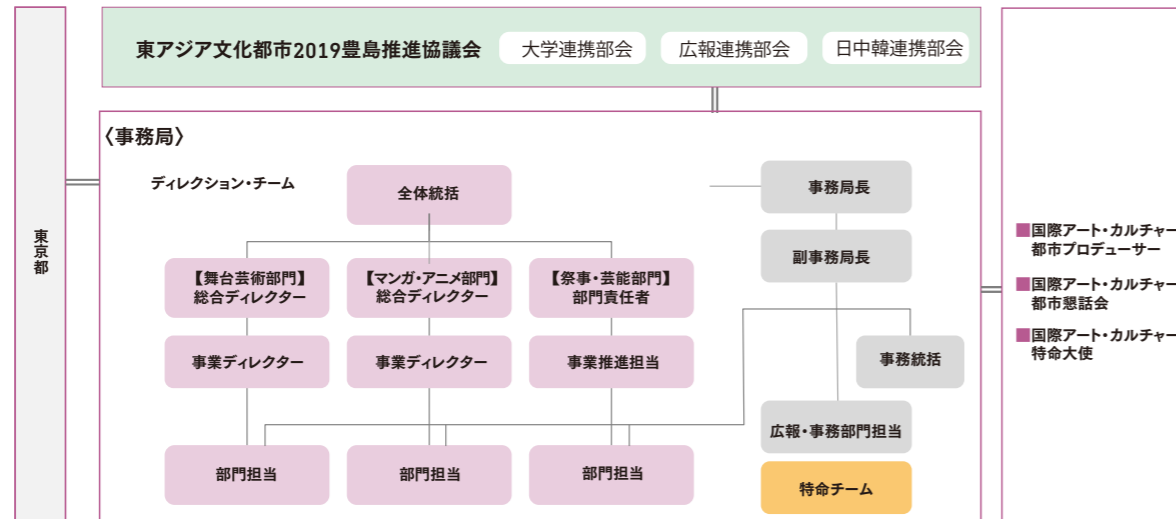
2019年
11月24日
閉幕式典!
Hareza池袋
芸術文化劇場

池袋西口公園
オープン



実施体制

東アジア文化都市2019豊島実施体制図



◆東アジア文化都市2019豊島 実行委員会

東アジア文化都市2019豊島は2019年の開催に向けて、区を代表する文化、経済、観光分野等の関係者による準備委員会を立ち上げ、準備委員会事務局を設置し準備・運営を行ってきました。開催都市として正式決定後ただちに、国際アート・カルチャー都市プロデューサー、懇話会正副会長、特命大使代表幹事などの方々を加えて、体制の強化を図り実行委員会へと改編しました。

◆東アジア文化都市2019豊島 推進協議会

オールとしまによる実施体制を構築するため、国際アート・カルチャー特命大使の顧問・幹事の方々を中心に、区内のあらゆる分野で中核となって活動されているの方々による「東アジア文化都市2019豊島 推進協議会」を設置し、取り組んでいきます。また、推進協議会には「大学連携部会」、「広報連携部会」、「日中韓連携部会」を設置し、特定のテーマごとの事業推進も行います。

■大学連携部会

豊島区と「地域連携に関する包括協定」を締結している学習院大学、川村学園女子大学、女子栄養大学、大正大学、帝京平成大学、東京音楽大学、立教大学を中心に部会を設置し、区内大学と連携した事業を展開予定です。

■広報連携部会

鉄道事業者、百貨店、ホテル、地元企業などを中心に部会を設置し、企業と連携した広報を展開予定です。

■日中韓連携部会

豊島区内に住む中国・韓国にゆかりのある方々で構成される団体と連携し、東アジア文化都市における中国・韓国交流都市とともに、豊島区民(日本・中国・韓国)の交流を展開予定です。

■特命チーム

豊島区では全庁的な体制による取組みを図るため、全部局から若手職員を公募して30名の兼務職員からなる特命チームを設けています。

事業予算(2018年度)

東アジア文化都市2019豊島の開催に向けた、2018年度の予算(開幕式典開催費用を含む)は以下のとおりです。

東アジア文化都市2019豊島準備委員会予算(2018年度)

(単位:千円)

収入	豊島区負担金	82,000
	豊島区貸付金(開幕式典等)	36,000
	文化庁委託費(開幕式典等)	36,000
	計	154,000

支出	ディレクション業務委託	7,100
	事務局運営費及び事業推進経費	36,700
	広報・デザイン経費	30,000
	開幕式典等(文化庁委託費)	36,000
	交流都市訪問等交通費	5,260
	翻訳、法務、税務等諸経費	2,940
	豊島区貸付金返還金	36,000
	計	154,000

※2018年2月13日現在



公式 WEB サイト

<https://culturecity-toshima.com>

東アジア文化都市 2019 豊島実行委員会事務局

〒171-8422 東京都豊島区南池袋 2-45-1 豊島区役所本庁舎 8 階

TEL 03-4566-2841 | FAX 050-3153-7888 | contact@culturecity-toshima.com

